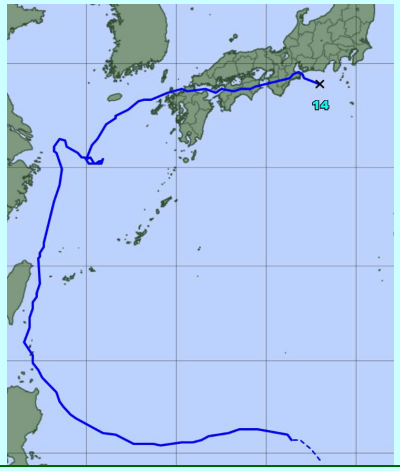
ある町の天気相談所

Vol.46
2021.10. 8

令和３年１０月号

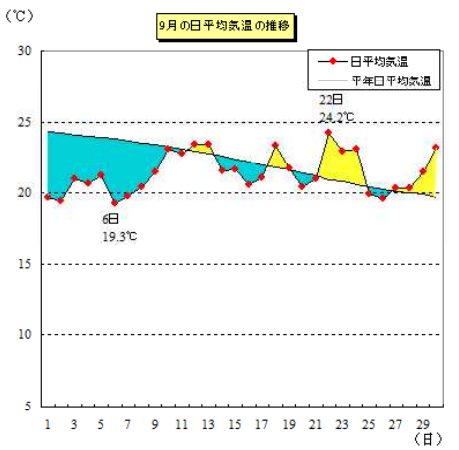
台風第14号

9月6日にフィリピンの東で発生した台風14号は、一時、猛烈な台風にまで発達しました。八重山列島の西を通り、北緯30度付近から動きが遅くなって次第に弱くなりましたが、再発達し、17日夜に福岡県に観測史上はじめて上陸、四国、紀伊半島を通り、18日には東海道沖で温帯低気圧に変わりました。



9月の気候

9月の気温は、上旬はかなり低く、中旬は平年並みで、下旬は高くなり、月平均気温は21・4℃と平年並みとなりました。雨の日数は多く、中旬には台風が近づくなど、まとまった雨の日もありましたが、月合計降水量は１６６・５ミリと平年の95％となりました。１日から４日まで日照時間が０時間となるなど、晴れの日は少なく、月合計の日照時間は１２５・９時間と平年の89％となりました。

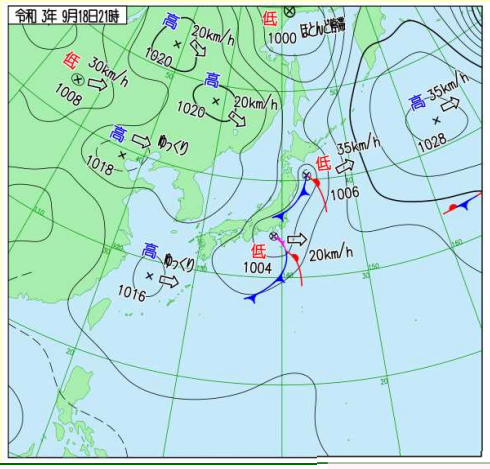


1カ月予報（気象庁発表）

10月は、天気は数日の周期で変わり、中旬からは平年と同様に晴れの日が多い予想です。気温は「平年より高い」、降水量及び、日照時間は「ほぼ平年並み」の見込みです。

9月のお天気解説

台風第14号による、日立市への直接の影響はありませんでしたが、台風から変わった温帯低気圧からの湿った空気と、北日本を進んだ低気圧からのびる寒冷前線の影響により、西部山沿いを中心に、18日夜遅くに雨が強まりました。



寒冷前線による雨雲の東進と台風から変わった低気圧の南からの湿った空気が日立市西部でぶつかり、一時的に停滞したため、１時間最大降水量で、本山では38ミリ、西部支所では35ミリを観測する雨が23時頃までに降りました。総降水量は本山で１３２ミリ、十王交流センターで１０３・５ミリ、市役所で８６・５ミリでした。

天気用語の基礎知識

大雨注意報

大雨注意報には、「浸水害」「土砂災害」その両方の「浸水害・土砂災害」の３つの種類があるが、通常はいずれかが発表されても「大雨注意報」とのみ表現されることが多い。気象庁のホームページなどでは、「大雨（浸水害）」などと表示される。警報、特別警報についても、同様である。以前は予想降水量が基準であったが、現在は指数が利用されている。

……神峰の山から……

先日、天気相談所をＮＨＫ水戸放送局気象キャスターの福嶋アダムさんが訪れ、撮影をしていきました。地方自治体の気象業務という珍しい存在を、仕事の説明や役割を通して紹介してくれました。筆者も登場しますが、行政放送の時と同様に、緊張し、話すことだけに気が行ってしまうため、どこかとぼけた部分が必ず出てしまっています。福嶋さんは、天気相談所については以前からご存じで、就職先の一つとしても検討されたそうです。もし入所されていたら、天気相談所のイメージも今と違っていたかもしれませんね。

10月5日に放送されましたが、15日の昼前11時30分からの番組で再放送される予定だそうです。